

## 106 心筋虚血診断におけるブドウ糖インスリン

負荷  $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィの臨床的有用性

塩谷英之 (神戸大 保) 松田祐一 (神鋼病院 循)

酒木隆壽, 成瀬 均 (兵庫医大 一内)

経静脈性にブドウ糖とインスリンを負荷することにより、虚血診断能が安静時 BMIPP 画像に比較して向上するか否かを検討した。有意狭窄を有し、一過性心筋虚血を認めた狭心症患者 10 例を対象に、安静空腹時に 10%ブドウ糖 200ml と速効性インスリン 4 単位を 20 分間持続静注し、BMIPP-GI SPECT を施行し、安静時 BMIPP 画像及び負荷 T1 画像と比較検討した。BMIPP-GI における虚血責任冠動脈の支配領域 DS は  $4.6 \pm 1.3$  で、安静 BMIPP 画像における  $1.6 \pm 0.7$  に比し有意に高値を示した ( $p < 0.05$ )。T1 負荷像における  $6.1 \pm 1.2$  に比べ低値を示したが、有意差は認められなかった。従ってブドウ糖インスリン負荷  $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋シンチグラフィは心筋虚血診断において有用な方法と考えられた。

## 107 $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋 SPECT 後期像における再分

布現象、逆再分布現象の臨床的意義

朝日大学附属村上記念病院 循環器内科

永田一洋, 伊藤一貴, 岡野 晃, 米山聡嗣, 加藤周司

【目的】 $^{123}\text{I}$ -BMIPP 心筋 SPECT (BM) 後期像における逆再分布現象 (rRD)、再分布現象 (RD) の臨床的意義を検討した。

【対象と方法】心臓カテ検査を施行した心疾患連続 250 例を対象とし、BM の 15 分後 (I) 像と 3 時間後 (D) 像を撮像した。RD および rRD と各種心疾患の臨床的指標との関連を検討した。【結果】虚血性心疾患：胸部症状、高度狭窄を有する群で rRD、高度虚血発作が検査に直前にあった群で RD が高頻度に認められた。高血圧心：高度肥厚群および心不全既往群で rRD が高頻度に認められた。弁膜疾患：心機能低下群、心不全既往群で rRD を高頻度に認めた。【まとめ】慢性虚血および心不全の病態が関与する場合に rRD、急性虚血の病態が関与する場合に RD が高頻度に出現することが示唆された。【総括】BM 後期像における rRD および RD は各種心疾患の病態を反映していることが示唆された。